Ⅰ　実践

１　研究主題

認め合う・助け合う・思いやる心を育てる人権教育の実践

２　主題設定の理由

本校の教育目標は，「一人一人の能力をのばし，心身ともにたくましい人間性と豊かな児童の育成に努める」であり，かしこく・なかよく・たくましくを三つの柱とし教育活動を展開している。また目標に迫るための本年度の教育方針として「児童も教師も楽しいと思える学校」を設定し，人権の意義・内容や重要性について理解できるよう，各教科・道徳・特別活動の指導計画の中に人権教育を位置づけ，指導の充実を図っている。

本校は全校児童９５８名という大規模校である。集団で取り組む教育活動を実施するとともに，一人一人のニーズに応じた人権教育を行うことで，人権への理解をより深めていけると考える。そして他者を認めて協力し合うことや人を思いやる気持ちを育み，児童が自分の良さを見つけて大切な存在であることに気付けるようになってほしいと考え，本主題を設定した。

３　実践内容

（１）人権月間の実施

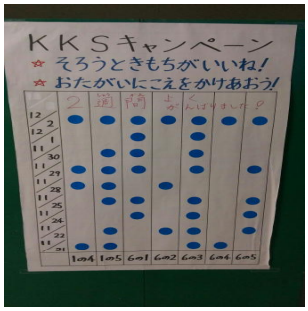
１１月７日から１２月２日の約１か月間を「くしっ子　あったか人権月間　～大切な自分　大切な友達　大切な命～」をテーマとして設定し，全校で人権について考える期間とした。実施前には，全校集会で人権月間のテーマやねらい，取り組む活動について写真を交えて説明したことで具体的なイメージをもつことができた。

ア　KKS（くつを・きれいに・そろえよう）キャンペーン

全校児童で取り組む活動として KKS キャンペーン（※坂本中学校の実践を参考）を実施した。「下駄箱にくつをきれいにそろえる」という意識が薄い児童が多かったが【かかとをそろえる・中央に置く・ふちをそろえる】というポイントが分かると，全児童が取り組むことができた。達成度表を下駄箱の近くに設置して成果が目に見えて分かるようにしたり，昼の放送でそろっていたクラスを発表したりすることで，意欲を持続させながら実施することができた。友達と声をかけ合って協力したり，そろった下駄箱を見て「気持ちがいいね。」という児童の声が聞かれたりと，成果があった実践である。キャンペーンの期間が終了した後も学級の係が中心となって活動が継続されている。

【実施前の下駄箱の様子】

【実施中の下駄箱の様子】



【達成度表】

イ　人権メッセージ

道徳の時間を活用しながら全学年で取り組んだ。各クラス３点ずつ優秀な作品を選び，人権コーナーに掲示することで，低学年から高学年まで，多くの児童が足を止めてメッセージを見ていた。また人権メッセージを給食中に放送で流すことで，放送中は注意深く聞き入る姿が多く見られた。

【ある児童の人権メッセージ】

「ぼくはありがとうという言葉が大好きです。人に親切なことをした時や助けてもらった時にありがとうを言うと，心が明るくなります。ぼくもみんなからありがとうを言われるようにいっぱいいいことをしたいです。」

ウ　人権教室の実施

３～６年生を対象に担当教員が行う人権教室を実施した。３・４年生は「あったか言葉とチクチク言葉」を，５・６年生は「ネットいじめ」をテーマに学習をした。５・６年生の授業では携帯電話やスマートフォンの便利な所や LINE が原因で生じるいじめ問題について話し合った。「小学生に携帯電話は必要か？」という話し合いでは,「危険もあるから必要ない。」「便利だから使い方だけ守れば大丈夫。」などという様々な考えをもつことができた。

（２）人権意識の高揚と指導力向上のための職員研修の実施

職員会議ではミニ研修会として「みんなのねがい」などを参考に定期的な研修を行った。また本校では夏季休業中に人権教育の研修を位置付けており，今年度は「旧大川小学校の震災時の対応について」と「障害のある子どもへの対応・考え方」をテーマに研修を実施した。子どもの命を預かる立場として何が大切であるか，ユニバーサルな授業作りや学級とは何かを，話し合いながら考えを深めることができた。また研修後のアンケートでは，他の人権に関する問題に関心をもった職員が多く，人権意識を高めることができた。

４　成果

今年度は職員が人権教育に対する重要性を再認識して意識を高めたことで，その後の人権月間の取り組みが充実したものとなった。人権とは何かを今一つ理解しきれない児童も多かったが，様々な活動に取り組んでいくことで自然と他人を思いやることや助け合うことができるようになった。特に全校児童で取り組んだ KKS キャンペーンは初めて取り組む内容であったが，児童がねらいや成果を明確につかみ，現在では習慣化されつつある。

低学年では，読書の目標を達成できなかった友達，自分よりも多く読んだ友達に「よくがんばりました」と書いた手作りの賞状を作って渡していた。高学年では，破損している階段の一部を目立つように補修し，登る人がすぐ分かるようにしていた。誰かを思いやるこのような姿が自然と増えていったことは，人権教育の一つの成果であった。

Ⅱ　今後の課題

人権教育がさらに学校の教育活動全体で行われるように，各教科や道徳の時間などで人権について考える場や体験的な活動を設けていく必要がある。また大規模校ならではの集団で取り組む実践ができる反面，活動のねらいや意図の共有化を十分に図り，連携していく必要があることも分かった。今後は，教師の子どもに対する日頃の接し方を含めて見直し，人権教育のグットモデルとなれるように校内研修等をさらに充実させられるように努めていきたい。

Ⅲ　人権コーナーの設置の様子

【熊本募金のポスター】

【今までの募金活動と KKS について】

【近隣の特別支援学校の紹介】